



▲総会であいさつを行う宮高会長（右から2番目）

6月7日(水)、株式会社開発工営社会議室で、札幌圏に居住する登別にゆかりのある人たちがふるさと登別を応援する『札幌のぼりべつ会』の総会と、市からの情報提供や札幌圏と登別の事業者との経済交流を行う『札幌のぼりべつ交流プラザ』（同会主催）が開催されました。

総会では、宮高憲一（みやたかねいち）会長が「札幌圏における『情報の受発信基地』として、登別のPRや登別への情報提供に努めていく」とあいさつ。昨年、創立20周年を迎えた同会は、郷土発展のためにさらなる活動を行っていくこととし、今年度に取り組む事業案などについて協議しました。

郷土に思いをはせて 札幌のぼりべつ会平成29年度総会 第24回札幌のぼりべつ交流プラザ

6/7

生涯を通して学ぶ喜び

登別ときめき大学第1回基礎コース講座

5/31

5月31日(水)、市民会館で、『登別ときめき大学』の平成29年度第1回基礎コース講座『アイヌ神謡集超入門』（市教育委員会主催）を行い、35人の方が受講しました。

講師には、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構のアイヌ文化活動アドバイザーである小坂博宣（こさかひろのぶ）さんを招き、『アイヌ神謡集』の出版に至るまでの経緯や執筆者である知里幸恵（ちりゆきえ）の生涯などについて解説していただきました。

さらに、受講者全員で、『アイヌ神謡集』の『カムイユカラ』を謡うなど、知識をよりいっそう深める時間となりました。

『登別ときめき大学』とは、年齢・性別に関係なく生涯を通して学び続けることのできる市民大学です。興味のある方は、社会教育グループ ☎01129 までご連絡ください。



▲『アイヌ神謡集』の内容構成について説明を受ける受講者

登別観光の 新たな拠点が誕生

6/1

『のぼりべつインフォメーションセンター』オープン

6月1日(木)、JR登別駅に、観光案内所『のぼりべつインフォメーションセンター』がオープンしました。この案内所は、同駅にあった売店が2月に撤退したことに伴い、登別観光協会が新たに設置したものです。各種観光パンフレットを設置しているこの案内所には、同協会の職員が常駐し、観光案内のほか、JR登別駅から登別温泉までのバスの乗車券や市内テーマパークの入場券の販売などを行います。

案内所の開所に先立ち、同日の10時からオープニングセレモニー（同協会主催）が開催されました。同協会の唐神昌子（からかみまさこ）会長が「国内外を問わず個人観光客が増えている。駅を利用する方に、サービスと情報を提供し、登別の魅力を伝えたい」とあいさつ。これから多くの観光客に『おもてなし』を行っていく案内所の門出を祝し、唐神会長や小笠原市長ら関係者6人がテープカットを行いました。

オープン直後に来られた外国人観光客に英語で懇切丁寧な観光案内を行うなど、新たな観光拠点として機能し始めた案内所。開所時間は9時から17時まで、当面は無休で対応する予定です。



▲テープカットで観光案内所のオープンを祝う関係者



▲観光客が集まる『のぼりべつインフォメーションセンター』